

# 「広げよう ふれあいの輪」

笠置町立笠置小学校

笠置町立笠置第一保育所

## 1 学校及び地域の実態

本校は、全校児童 81 名、6 学級の小規模校である。豊かな自然環境の中で暮らす子どもたちは、素朴で明るく、伸び伸びとした学校生活を送っているが、単学級で入学以来同じメンバーが継続することから、児童間の結びつきは深くなる反面、固定化した人間関係が原因でのトラブルも見受けられる。

平成 15 年度より、児童一人一人が、人と関わる力を十分身に付け、人間関係を豊かにする基礎を培うことを目指し、隣接する保育所との交流を行っている。

## 2 連携している幼稚園・保育園（所）名

笠置町立笠置第一保育所

## 3 連携の概要

学年等		教科・領域等	内 容	時 期
児童	幼児			
1 年	5 歳	音 楽	手作り楽器で演奏しよう	5 月 6 月
	5 歳	体 育	ボールゲーム おにごっこ	11 月
2 年	5 歳	生 活	教え楽しく遊ぶ（おもちゃランド）	11 月
	5 歳	国 語	読み聞かせ	3 月
5 年	5 歳	総合的な学習の時間	運動会練習（来入児種目）	9 月
	5 歳	総合的な学習の時間	半日入学の際の交流遊び	2 月
教員	保育士		保小連絡会(公開保育、授業参観、交流)	5 月 3 月

※休み時間の交流 ・小学校（運動場）及び保育園の開放（全校児童と 4，5 歳児）  
・草木染め（5 年と 4，5 歳児）  
・ドッジボール、縄跳び（1 年と 5 歳児）

※交流給食 ・1 年と 5 歳児（3 月） ・5 年と 5 歳児（9 月）

## 4 連携実践事例

### (1) ねらい

ア 互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する態度や実践力を培う。

イ 保育園児（異年齢集団）との遊びや自然体験を通して、幅広い友達との関わり方を学び、豊かな人間関係を築く基礎を培う。

ウ 子ども達の育ちを継続的に見ながら、就学前教育と小学校教育の相互理解を図り、

望ましい教育の在り方について研究を深める。

(2) 連携の内容

ア 音楽「手作り楽器で演奏しよう」

(ア) 対象 1年生(8名)と5歳児(16名)

(イ) 内容

- a 5月31日…小学校の音楽室で自己紹介後、音楽室にある様々な楽器に触れ、音を楽しむ。
- b 6月4日…図工室で、4つのグループに分かれ、家から持ち寄った身近にある材料を使って、楽器づくりを楽しむ。
- c 6月10日…1年教室で、前回の4つのグループに分かれ、完成した手作り楽器で合奏を楽しむ。

イ 体育「ボールゲーム」

(ア) 対象 1年生(8名)と5歳児(16名)

(イ) 内容

- a 11月4日…小学校の運動場において、音楽に合わせた準備体操的当て、的入れ運動  
ボールを運ぶ運動
- b 11月12日…前時から発展した遊びの紹介・練習

ウ 総合的な学習の時間「運動会練習」

(ア) 対象 5年生(12名)と5歳児(16名)

(イ) 内容

- a 9月7日…交流給食と遊び
- b 9月14日…運動会練習

5年生による前回の交流をもとにした種目内容の相談と決定  
※安全で園児が楽しめる種目(電車の旅)  
二人ずつのペアになって練習する。

5年生の作文より

今日、保育所の子といっしょに給食を食べました。〇〇ちゃんという子に食べ方を教えてあげました。〇〇ちゃんは「ありがとう」と言ってくれました。うれしかったです。「おいしい?」と聞くと「うん」と言ってくれました。「あー小さい子って、こういうふうにするんだ。」と思いました。同級生だったら話も合うからしゃべりやすいけど、小さい子はどっちかというと苦手な方です。

食べ終わったら、「けいドロ」と「だるまさんが転んだ」をしました。「しょうもなー。ドッチボールの方がずいぶん楽しいわ」と思ったけど、保育所の子はみんなケラケラ笑って、汗をかきながら遊んでいました。私はびっくりしました。

「保育所の子はこんなんが楽しいんだ。」と思いました。これからも会う機会があると会いたいです。



手作り楽器で合奏（1年と5歳児）



休み時間の交流（5年生と4、5歳児）

### (3) 連携の留意点

- ア 交流の場面では、子ども達の自主性を尊重するようにして支援した。教師はできるだけ指示や指導をせず、見守る姿勢を基本とした。
- イ 園児と児童の体力差、体格の差を考慮して、交流遊びの場面では、ブランコやボールの使用を禁止し、屋内では廊下歩行を強化するなど、安全に留意した。

## 5 成果

- (1) 保小連絡会において、就学前教育と小学校教育の連携の在り方を見つめなおす機会となり、その必要性を共通確認することができた。
- (2) 交流が深まるにしたがい、「児童自身が楽しむ」活動から、「園児を楽しませる」活動へと変わり、また、園児の喜ぶ顔を見ることを「喜び」と感じる姿が見られるようになった。
- (3) 園児に対して優しい言葉かけをしたり、リーダー性を発揮するなど、普段の学校生活では見せない姿を見せる児童がおり、新しい一面を発見することができた。（固定的な見方の解消）
- (4) 保育所開放は、1年生にとって古巣へ帰れた喜びがあり、また教師にとっても保育所生活を垣間見ることで、入学児童への対応に生かすことができた。上級生にとっては、自分たちの成長を振り返る機会となった。
- (5) 交流学习では、園児や保育士が加わることによって児童の発想が広がり、生活科の作品や音楽の演奏など、内容が豊かなものになった。
- (6) 交流の翌年、入学児童にとっては、新しい環境への不安が解消され、スムーズに小学校生活をスタートさせることができた。上級生との関係においても、自然に6年生が1年生の世話をするなど良い関係がみられた。

## 6 課題

- (1) 特別活動（学校行事）との兼合いから、時間の確保が難しいため、内容の精選と方法の見直しが必要である。
- (2) 保育所との連絡を密にしながら、より効果的な交流のあり方を検討し、人間関係を豊かにする取組の充実に努める。
- (3) 保育と学校教育とのねらいについて、連携の中でもう一度見直す必要がある。